

【写真：西養寺本堂】

【写真：本光寺山門と参道】

【探訪ポイントマップ】

重要伝統的建造物群保存地区

卯辰山麓

金沢の伝統的建造物群保存地区マップ



延宝期（1673～81）金沢城下図 卯辰山麓部分
【金沢市玉川図書館蔵】



金沢市の伝統的建造物群保存地区の位置



寺町台



主計町



卯辰山麓



東山ひがし

【編集・発行】金沢市文化スポーツ局 歴史都市推進課
TEL 076-220-2208 Fax 076-224-5046
〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
E-mail rekishitoshi@city.kanazawa.lg.jp 平成29年7月作成

【お願い】・伝統的建造物群保存地区は住民の生活空間です。迷惑にならないようルールを守って楽しく観光してください。
・住宅として利用されている町家は、内部非公開です。外観を注目してください。
・境内地などで喫煙等の火気の使用はご遠慮ください。

卯辰山麓重要伝統的建造物群保存地区

地区決定 平成23年 4月 1日
重要伝統的建造物群保存地区選定
平成23年11月29日
地区面積 約22.1ヘクタール

卯辰山麓の沿革と特長

慶長期から元和期(1596年～1624年)にかけて、寺町台、小立野台と共に卯辰山麓で寺院群の建設が始まり、延宝期(1673年～1681年)までには概ね完了したと考えられています。寺院群形成の理由として、城下町の防衛拠点としての軍事的機能のほか、金沢城から見た鬼門除け、城下町の拡大において空間利用の区分を目的としたなど諸説があります。

卯辰山山麓寺院群は、慶長4(1599)年に前田利家を祀る卯辰八幡宮(現在の宇多須神社)が建立されて以降、宝泉寺、観音院をはじめ加賀藩ゆかりの寺院が立地してきました。地区内は、藩政時代からの細街路や町割が現在も残り、山麓の地形に沿った屈曲した街路に面して寺社が並んでいます。また、旧北国街道から山麓の寺院に向かう参道やそれらを結ぶ細街路に面して町家が建っており、寺社と町家が混然一体となった景観を見せています。

〇七面小路

かつて蓮覚寺の正面がだった路で、蓮覚寺の七面大明神が信仰を集めていたことから七面小路と呼ばれました。円光寺門前から折れ曲がりが続く小路の沿道に寺院が位置しており、寺院群の雰囲気最も感じられる場所です。

入母屋造の楼門の形式をとりますが規模は小さく、外壁等に弁柄を塗布してあるところから赤門の俗称があります。建立年代は不詳ですが、その細部様式から18世紀後半と推定されます。



角地に建つ城の櫓のような3階建てが通りのランドマークになっています。



江戸時代末期の建築とされ、間口6間の構えで、正面2階部分が低く、柱間に部(しとみ)を入っています。2階の正面は、防火のために漆喰を塗りまわした塗り家造りで、窓には粗い格子が入っています。腕木に支えられた深い軒の出、両端に付く袖壁など古い町家の意匠をとどめています。



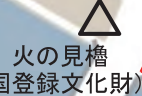
5 高木花店(市指定保存建造物)

〇旧木町通り

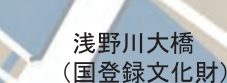
旧北国街道の東側に並行する通りで、かつて材木商が多く居住していたことから木町と呼ばれたといわれます。見通しの良い直線街路の両側に町家が点在しています。



東山観光バス
駐車場



火の見櫓
(国登録文化財)



浅野川大橋
(国登録文化財)



9 経田屋米穀店
(市指定保存建造物)

明治37(1904)年頃の建築で、座敷より後部は軽量鉄骨造に建て替えられていますが、旧観音町通りに面する前部外観は、部(しとみ)、底下のサガリ、2階の格子窓・袖壁、軒先のカザガエシなど古い町家の意匠をとどめています。



〇旧観音町通り

元和2(1616)年、観音院が造営された時、4代藩主前田光高が浅野川大橋から観音院までの狭かった道を拡幅、造成して観音町としました。伝建地区になるまでは市独自の「こまちなみ保存区域」として町並み保存が図られてきました。良質な町家が多く残っています。



2 全性寺山門(市指定文化財)

※妙泰寺

本堂が石置き屋根の名残りをとどめています。山門(市指定文化財)

※玄門寺

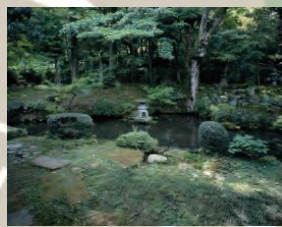
丈六(約4.85m)の立像阿弥陀仏があります。非公開

※妙国寺

妙国寺 卵形の特徴的な大黒堂があります。山門(市指定文化財)

※蓮昌寺

丈六(約4.85m)の釈迦如来立像があります。山門(市指定文化財)



1 心蓮社庭園(市指定名勝)



3 本光寺参道



4 西養寺鐘楼
(市指定文化財)



6 中村家住宅
(国登録文化財)



7 ひがし茶屋休憩館
(市指定文化財)



8 正田家住宅
(市指定保存建造物)

築山池泉式の書院庭園で、卯辰山の傾斜地を借景とし、湧水を利用した池を中央に配し、池のみにぎわに自然木のタブを配しています。背後に二段の築山を築き、向かって右手に三尊石を中心とした枯山水様式の滝石組が遺っています。江戸初期の作庭と推定されます。

コンクリートで舗装されていた参道を発掘調査し、当初の石段とたたき仕上げに復元整備されました。妙国寺参道も同様に復元整備されています。山門はいずれも市指定文化財です。

嘉永4(1851)年の建築で、戸室石の基壇に礎盤を置き、円柱を立てています。上部で頭貫を通し、先端は獅子頭鼻の彫刻木鼻を飾っています。組物間には琵琶板に彫刻を飾っています。本堂も市指定文化財です。

江戸時代後期の建築と推定され、正面2階部分が低く格子窓で、両側に袖壁が付き、腕木構造で軒の出を支えています。1階は出格子窓になっています。

江戸時代末期の建築と推定され、調査に基づき明治期の姿に復元整備された町家です。建築当初の姿は平屋建て・板葺き石置き屋根でした。1階正面の柱間には部(しとみ)が入り、軒先にはカザガエシ、2階両側に袖壁、2階窓面には古格子が付き、1階板庇の下にはサガリが付いています。

明治初期の建築と推定され、屋根の勾配は板葺き石置き屋根当時のまと考えられます。金沢の町家の特徴であるカザガエシ、袖壁、木虫籠(キムシコ)、底下のサガリ、玄関の大戸の構えがよく旧態を保っています。2階の出窓も特徴的です。

注：伝統的建造物群保存地区の境界は、詳細を簡略化している部分があります。